

### 〈3〉 イラン新政権の外交方針に影響する諸要素 ～欧米との対話の可能性を中心に～

寺中 純子\*

#### はじめに

イランでは、任期を1年残して事故死した保守強硬派の大統領の後を受け、2024年6月の選挙で改革派や中道寄りの保守穏健派から支持を受けた人物が大統領に当選した。イランの内政や外交は、同国の核開発活動や地域での影響力行使を懸念する国々にとって常に観察の対象とされてきたが、前任と政治色が異なる大統領の誕生により、新政権の下でどのような外交が展開されるかが改めて注目されている。

イランの核開発については、イランが関連の活動を一定の枠内に留めることを約束する代わりに米国やEUが経済制裁の解除を約束した核合意（Joint Comprehensive Plan Of Action, JCPOA）が、2015年7月に成立した。しかし、2018年5月に米国が合意を離脱して制裁を復活させると、翌年にはイランも核開発活動のレベルを引き上げ、現在、合意は実質的に崩壊状態にある。さらに2025年10月には、JCPOAを裏書きした国連安保理決議2231号が終了することとなっており、国際社会が核問題についてイランと向き合う枠組みが形式的にも区切りを迎える。

新大統領は、悪化した国内経済を立て直すには制裁解除が必要であり、そのためには欧米との対話を厭わない姿勢を表明している。ただ、イランにおい

て核開発や外交等、国家の重要事項について決定権限を有するのは最高指導者と呼ばれる存在で、大統領は最高指導者が示すガイドラインの枠内でのみ裁量を与えられている。欧米諸国も、イランの核開発活動を制限する枠組みを設けることは自らの利益になるが、周辺の国際情勢も影響し、最近ではイランに対し、核問題以外を理由とする制裁指定が増え、厳しい対峙姿勢が目立つ。

本稿では、こうした環境を踏まえ、イランの外交方針、とくに欧米との対話の可能性を考えるにあたっての手がかりを、いくつかのポイントに絞って示したい。そこで、まず新政権の外交政策に関する主要人物の最近の発言を確認したうえで、欧米との対話の可能性を左右する要素として、イラン経済の現況、イランの対外経済関係の変化、イランの核開発活動に関する状況変化、米欧による最近の対イラン制裁強化の動向を取り上げる。

#### 1. 新政権の外交政策に関係する 主要発言

大統領選挙で当選したペゼシュキアン氏は、最高指導者による認証式、国会での就任宣誓式を経て、7月末に正式に大統領に就任した。大統領は、就任後まもなく国会に閣僚名簿を提出し、大臣候補一人一人に対する議員投票で一度に全員への信任を得て新

\*2024年3月まで、一般財団法人 海外投融資情報財団 調査部 上席主任研究員

政権を発足させた。大臣候補全員が初回投票で過半数の賛成票を得ることは珍しい。外務大臣には、かつて保守穏健派<sup>1</sup>のロウハニ政権期に、法律・国際問題担当外務次官として JCPOA 交渉で首席交渉官を務めたアラグチ氏が就任し、第一副大統領には、かつて改革派のハタミ政権で情報通信大臣や第一副大統領を務めたアレフ氏が任命された<sup>2</sup>。また、ロウハニ政権で外務大臣を務め、JCPOA 成立まで交渉の中心人物であったザリフ氏が顧問として任命されている<sup>3</sup>。

大統領は交代したが、イランの外交は、「はじめに」で述べたように、最高指導者のガイドラインに従って行われる。最高指導者は、1989 年以来君臨するハメネイ師である。ペゼシュキアン氏は、選挙戦中も、就任宣誓式においても、自らの外交政策の枠組みは、ハメネイ師がかねてより提唱している「名誉 (honor)、叡智 (wisdom)、便宜 (体制の利益への適合) (expediency)」の原則に基づくと述べている<sup>4</sup>。

最高指導者がイラン外交の指針とする「名誉、叡智、便宜」の「名誉」とは、言葉の上でも中身においても相手に懇願するような外交を否定し、外国の

当局者の言葉や決断に期待しない姿勢と説明されている<sup>5</sup>。「叡智」とは、熟慮された言葉や行動を指し、根拠なく相手を信用しない意味を含むとされる。「便宜」は、困難にあたり障害を迂回する柔軟性を意味するが、その柔軟性とはゴールを変えることではなく、障害を克服して自身の道を進み続ける方法を見つけることであると説明されている。柔軟性についての注釈は、核合意交渉中であった 2013 年に彼が「英雄的柔軟」路線の支持を表明した際、その意図について内外で (それが米国との関係改善まで含む可能性がある等) 誤解を受けたことを踏まえている。

最高指導者は、最近の様々な場での発言で、強い対米不信を根底としながらも、経済の発展のためには対外関係の構築が必要であるとし、近隣諸国をはじめとして利益が一致するところとは積極的に関係を結ぶ姿勢を示している。また、地域における抵抗戦線の存在の重要性がガザ戦争によっていっそう明らかになったとし、各抵抗勢力の行動は彼ら自身の決定に拠っているとしつつ、彼らへの支持と、イスラエルへの強い批判を繰り返し表明している (表 1)。

表 1 最高指導者の外交関連の最近の発言

項目	発言内容 (時期、場面)
政治・外交の基本姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラム革命の理想に同調せず、米国に愛着を持ち、米国の好意なしには国内で何もできないと考えている者は大統領候補者として適切でない。(2024.6 イスラム行事の集まり)</li> <li>・ライシ前大統領は、真に自国の能力を信じ、国の問題は自分たちで解決できると考えていた。彼は、他国との交流に積極的であったが、常に尊厳を持ってそれを行っていた。(2024.7 ライシ政権メンバーとの会合)</li> </ul>
経済制裁への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(2020 年 12 月に国会が採択した) 制裁解除のための「戦略的行動計画」は、国を核問題の泥沼から救った根本的かつ重要な決定であった。(2023.5 当時の国会議員らとの会合③)</li> <li>・米国の好意なしには何事も成し遂げられないと考える者は国をうまく運営できない。(2024.6 イスラム行事の集まり)</li> <li>・我々は制裁を解除するだけでなく、名誉ある方法を通じ、制裁の無力化 (neutralization) によって問題を克服する力がある。(2024.7 国会議員らとの会合)</li> </ul>

<sup>1</sup> 政権には改革派の政治家も含まれていた。

<sup>2</sup> 彼は 2013 年の大統領選挙に立候補したが、投票前にロウハニ候補を推して選挙戦から撤退した経緯がある。当時、外交に関しては、世界との真剣な交流を通じた問題解決、最高指導者が提示した枠組みでの米国との交渉等の姿勢を表明していた。

<sup>3</sup> ザリフ氏は当初、戦略問題担当副大統領及び戦略研究センター長に任命されていたが、閣僚名簿が発表された直後にその職を辞する意向を表明していた (Syed Zafar Mehdi, "Iranian Vice President Javad Zarif steps down after ministerial nominations for new government", Anadolu Ajansı, August 1, 2024. <https://www.aa.com.tr/en/middle-east/iranian-vice-president-javad-zarif-steps-down-after-ministerial-nominations-for-new-government/3301234>).

<sup>4</sup> Alireza Akbari, "Analysis: How presidential hopefuls outlined foreign policy plans in 4th debate", PressTV, June 25, 2024. <https://www.presstv.ir/doc/Detail/2024/06/25/728107/How-presidential-hopefuls-outlined-foreign-policy-plans-in-4th-debate>, "Pezeshkian calls for global cooperation in inaugural speech", Islamic Republic News Agency (IRNA), July 30, 2024. <https://en.irna.ir/news/85553475/Pezeshkian-calls-for-global-cooperation-in-inaugural-speech>

<sup>5</sup> "Against enemies' desires, maintain policy of honorable relations with neighboring, Islamic, & friendly countries", Khamenei.ir, May 20, 2023. <https://english.khamenei.ir/news/9783/Against-enemies-desires-maintain-policy-of-honorable-relations>

項目	発言内容（時期、場面）
外交関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敵国は我々と近隣国との間に問題を作り出そうとしているが、これに反し、近隣諸国やイスラム共和国の政策に合致する政策を持っている国々との関係を維持しなければならない。（2023.5 当時の国会議員らとの会合）</li> <li>・我々は経済分野での対外的かつ国際的な活動に積極的に取り組んでいるし、取り組むべきである。これらの活動なしに経済を発展させることはできない。（2024.3 年度初めのメッセージ）</li> <li>・ライシ前大統領は、様々な国との関係構築を良しとし、近隣諸国等を優先に取り組んでいた。（2024.7 ライシ政権メンバーとの会合）</li> </ul>
地域安全保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガザでの戦争は、この地域における抵抗戦線の存在の重要性を示した。抵抗勢力の決定や行動は彼ら自身によって行われており、それは正しいことである。我々は、誰であろうと聖戦に関わる者の側に立ち、支持し、我々の目的を達成する。（2024.3 年度初めのメッセージ）</li> <li>・ガザの問題はイスラム世界最大の問題であり、口を噤んでいるべきではない。（2024.7 国会議員らとの会合）</li> <li>・シオニスト体制（イスラエル）は政府ではなく、テロリスト集団である。世界や地域の出来事を無視することは許されない。我々は力と尊厳をもって自身の立場を明確に示すべきである。（2024.7 大統領認証式）</li> </ul>

出所：最高指導者事務所ウェブサイト

(<https://english.khamenei.ir/service/Speeches>, <https://english.khamenei.ir/service/News>)

ペゼシュキアン大統領は、就任宣誓式において、世界との建設的でバランスの取れた交流と国民の権利の実現が自らの政権の最優先事項であると表明した。そして、外交政策においては近隣諸国との関係改善・強化が優先事項であるとする一方、世界との経済・貿易関係の正常化はイラン国民の奪うことのできない権利であり、抑圧的な制裁の解除を追求すると宣言した。ただし、交渉において威圧や二重基準には決して屈しないこと、互いを尊重し、平等な立場に基づく関係を築くこと等を強調している<sup>6</sup>。バランスの取れた外交については、大統領選挙戦中、イラン革命の指導者であったホメイニ師やハメネイ師が「東でも西でもない」外交を追求したとしつつ、東西いずれかに依存するのではなく、あらゆる国と関係を拡大すべきであると主張した<sup>7</sup>。制裁解除に関しては、宣誓式では具体的な方法への言及はなかったが、大統領選挙戦中には、圧力による制裁解除の実現を目指して制定された既存の国内法に従う姿勢を

みせている<sup>8</sup>。

この国内法は2020年12月に制定されたもので、制裁解除を対話によってではなく、核開発の推進やIAEAへの非協力等、相手に圧力をかけることによって勝ち取ろうとする内容である（詳細は2.(3)で後述）。当時のロウハニ大統領は、この法案の採択は外交の足かせになるとして反対したが、保守強硬派の議員が多数を占める国会において圧倒的な賛成多数で可決された<sup>9</sup>。ハメネイ最高指導者は、この法律の成立を、国を核問題の苦境から救うものと高く評価している<sup>10</sup>。現在の国会は当時以上に強硬派が席卷しており<sup>11</sup>、新政権が政策を円滑に実施するには国会との関係も重要になる。

現在の国会議長は、2020年からこの職にあり、2024年5月の議員投票で再選されたガリバフ氏である。彼は、革命防衛隊空軍司令官、治安維持軍（警察）長官、テヘラン市長等を歴任し、2017年からは、最高指導者が任命する体制利益判別評議会のメン

<sup>6</sup> 大統領府ウェブサイト上の2024年7月30日付記事 (<https://president.ir/fa/153156>)。

<sup>7</sup> “Jalili, Pezeshkian clash over foreign policy, cultural issues”, Mehr News Agency, July 1, 2024. <https://en.mehrnews.com/news/217135/Jalili-Pezeshkian-debate-kicks-off-on-Iran-s-national-TV>

<sup>8</sup> “Jalili, Pezeshkian debate over sanctions, inflation, housing”, Mehr News Agency, July 2, 2024. <https://en.mehrnews.com/news/217180/Jalili-Pezeshkian-face-off-in-2nd-debate-on-economy>

<sup>9</sup> “Rouhani says his admin. opposed to Majlis emergency bill on sanctions”, PressTV, December 2, 2020. <https://www.presstv.ir/Detail/2020/12/02/639829/Iran-Rouhani-Parliament-sanctions-law>

<sup>10</sup> “Parliament’s Strategic Action law saved the country from quandary on the nuclear issue”, Khamenei.ir, May 24, 2023. <https://english.khamenei.ir/news/9799/Parliament-s-Strategic-Action-law-saved-the-country-from-quandary>

<sup>11</sup> イランの政治党派別議席数は正確な把握が難しいが、2020年2月の国会選挙では強硬派を含む保守派が全290議席中221議席（Garrett Nada, “2020 Parliamentary Election Results”, The Iran Premier, February 24, 2020. <https://iranprimer.usip.org/blog/2020/feb/24/2020-parliamentary-election-results>）、2024年3月の国会選挙では強硬派が233議席（Garrett Nada, “Election Results: Hardliners Gain, Turnout Low”, The Iran Premier, May 13, 2024. <https://iranprimer.usip.org/blog/2024/mar/05/election-results-hardliners-gain-turnout-low>）等と伝えられている。